

---

## 予約 2

さすらいのかえる

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

予約2

### 【コード】

N9151B

### 【作者名】

さすらいのかえる

### 【あらすじ】

予約1のその後の話し。男の子に少しだけ変化が・・・？

俺の携帯が突然鳴る。彼女からの電話だった。

話しを聞くと、サバサバと自分が、男にふられた事を話してくる。

「はあ〜」

自然とため息が出る。

「あ〜うざくてごめんね」

そう言う事じゃないけどな・・・。

「いいから、来いよ」

「え？」

「電話じゃしょうがないから直接来いって事」

「いいの？」

「予約済みだろ」

「・・・じゃあいく」

俺の前に、彼女は何とも言えない顔であらわれた。

「えへへ」

「えへへじゃね〜」

彼女の頬を引っ張る。

「何すんのよ」

「俺の前で無理すんな」

彼女の腕を掴んで、強引に引き寄せて抱きしめた。呟くように言う。

「俺が無理してんだから説得力無しか」

「ん？なに」

「何でもない」

「・・・うん」

俺の腕の中で彼女が泣き出す。あやすように彼女の頭を優しく撫でた。何してんだろ俺・・・

まだ涙で潤んだ瞳のまま、俺の方を見上げて彼女が言う。

「前みたいにぎゅーしてよ」

「やだ」

「え？」

「だからやだっつの」

よほど俺の返答が意外だったのだろうか、泣くのを止めて俺の方をまっすぐ見つめている。

目線が合う。

「じゅめん」

そう言うと、彼女が俺の中から離れた。喪失感に戸惑う。

何してんだ俺は・・・。

自分の行動に自分であきれていると彼女が怒った風言う。

「あなたが無理してどうすんのよ！」  
「・・・だな」

彼女が、自分を指して言う。

「予約する？」

俺は何も言わずに微笑んだ。

終わり。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9151b/>

---

予約2

2010年10月16日09時06分発行